

令和6年度 普及活動成果集

次世代につなごう！魅力ある農業農村



アスパラガス新規就農者指導



トルコギキョウ品質調査



農産加工研修会



農作業安全研修



ブドウ園地流動化検討会



河川敷飼料作物の生産性向上



福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

令和7年3月

はじめに

飯塚普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画が示す5つの目指す方向のもと、「次世代につなごう！魅力ある農業農村」を普及活動のスローガンとして、2つのプロジェクト課題と9つの部門別課題を設定し、普及活動を展開しています。とりわけ、経営発展意欲のある農業者への支援、新規生産者の確保や新規品目の導入に向けての支援などを中心に、日々の活動を進めています。

活動にあたっては、市町村や農業委員会、JA等の関係機関・団体で構成する飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーや部会役員等の農家リーダーの皆さまとの連携・協力により取り組んできたものであり、この場をお借りして、関係の皆様には感謝申し上げます。

さて、令和6年度は、これまでにない夏場の猛暑が、水稻、大豆をはじめ、いちごなど野菜類の収量・品質に影響したほか、ぶどうの着色、花き類の開花促進など、多くの作物の生育や病虫害の発生に影響を及ぼすとともに、農作業従事者の体にも負担を及ぼしました。農業・農村を取り巻く情勢を見ますと、気候変動への対応に加え、担い手の育成・確保や資材費・飼料費の高騰・高止まり、鳥獣被害への対応など、引き続き対応すべき課題が山積しています。

このため、普及指導センターでは、時宜に応じた講習会や研修会の開催に努めるとともに、個別の巡回指導も積極的に行い、地域農業の課題解決に向けて取り組んできました。

この成果集では、これまでの取組のうち、本年度の主な活動成果や地域での新しい取組等をわかりやすく紹介しています。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後も、普及指導センターは「担い手づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって農家経営の改善と地域農業の振興に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和7年3月

飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

センター長 齋藤 和裕

目 次

1 普及活動の主な成果

- (1) 産地を守る経営発展意欲のある農業者の育成確保・・・・・・・・・・ 1
- (2) 新規生産者の確保による直轄地域農業の活性化・・・・・・・・・・ 2
- (3) 女性農業者の経営参画による担い手の育成・・・・・・・・・・ 3
- (4) ふくおかエコ農産物認証制度の栽培面積拡大・・・・・・・・・・ 4
- (5) イチゴの単収向上と担い手の育成による産地の活性化・・・・・・・・ 5
- (6) アスパラガスの生産技術の高位平準化による産地強化・・・・・・・・ 6
- (7) 花きの次世代の担い手育成・・・・・・・・・・ 7
- (8) 果樹優良品種及び施設面積の拡大・・・・・・・・・・ 8
- (9) カンキツの生産拡大・・・・・・・・・・ 9
- (10) 中長期計画に基づく酪農経営の生産基盤強化・・・・・・・・・・ 10

2 トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

3 各種表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4 令和6年気象・農業生産の概要

- (1) 気象概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (2) 農業生産の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

5 参考資料

- (1) 現地実証・展示ほ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (2) 現地活動情報一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- (3) 普及指導センターの活動体制・・・・・・・・・・・・ 24

1 普及活動の主な成果

(1) 産地を守る経営発展意欲のある農業者の育成確保

○概要

管内でも他地域と同様に担い手の高齢化・減少が進んでいます。このため、産地の維持・発展を目指して、経営発展意欲のある農業者に対し、長期的な経営ビジョンを定めた経営長期計画（ビジネスプラン）の策定支援やその計画達成に向けた経営シミュレーションの提案、専門家の派遣等の伴走支援を行いました。

○対象概況

経営体育成支援対象者（18 戸）
ビジネスプラン作成農業者（28 戸）

○活動内容

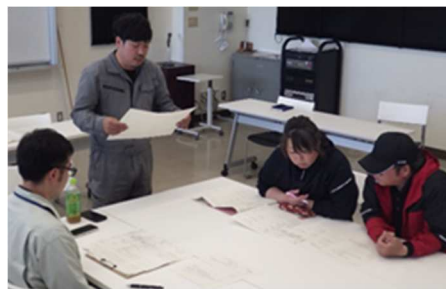
経営者育成塾	4 回
ビジネスプラン作成者への伴走支援	5.8 回/戸
経営シミュレーションの実施	8 戸
雇用研修会の開催	1 回
専門家（税理士等）の派遣	3 戸

○成果

- 1 新たに 6 戸の農業者がビジネスプランを作成しました。
- 2 経営発展意欲のある農業者を対象に雇用や規模拡大の経営シミュレーションを行い、12 戸の農業者が新たに雇用を導入または経営規模を拡大しました。
- 3 伴走支援の過程で法人化の提案をした農業者のうち 2 戸が農業生産法人を設立しました。

○今後の取組

今後は、ビジネスプランの作成農業者を更に増加させ、作成者に対しきめ細かい伴走支援を行うことで、農業者の経営発展を加速させ、引き続き産地の維持・発展を図ります。



ビジネスプラン作成講座の開催



雇用研修会の開催



法人化後の課題を聞き取り
(伴走支援)

(2) 新規生産者の確保による直鞍地域農業の活性化

○概要

直鞍地域では担い手の高齢化により、生産部会員数や生産量の減少が続いています。そこで、推進品目の説明会や「ふくれん県北地区広域販売センター」（以下、VF）の活用推進を通じ、新規生産者の確保に取り組みました。

VF：生産者の作業負担軽減等を目指し、令和2年にJA全農ふくれんが直方市に設置した、園芸品目の①買取直売機能、②選果・選別・包装加工機能、③広域集出荷機能を備えた施設

○対象概況

JA直鞍 16 生産部会

VF 出荷者 40 名（イチゴ、ナス、ブロッコリー、イチジク）

○活動内容

直鞍地域園芸振興検討会の開催	8 回
推進品目説明会の開催	4 回
JA広報誌による作付推進	5 回
新規就農相談・新規就農支援	随時
栽培講習会の開催	62 回



露地ナス部会現地検討会

○成果

- 1 直鞍地区のナスの品質向上・ロット拡大を目指し、ナス生産者の部会への加入推進を図り、新たに8名が部会に加入しました。
また、他品目でも新規就農者等も含め、新たな部会員が7名増加しました。
(イチゴ、ブロッコリー、キュウリ、イチジク、スモモ)
- 2 部会員確保にあたっては、特に新規就農者や新規作付者に対し、VFの活用を提案し、新たに8名が利用開始しました。
(ナス、イチゴ、ブロッコリー、イチジク)



VFのナス出荷目合わせ会

○今後の取組

引き続き、直鞍地域農業の活性化に向けて新たな生産者の確保に取り組むとともに、講習会や重点的な現地指導等を通じ、新規生産者の栽培技術の早期習得を図ります。

(3) 女性農業者の経営参画による担い手の育成

○概要

管内の基幹的農業従事者の3人に1人を女性が占めますが、認定農業者に占める女性の割合は全体の5%程度で、経営参画している女性農業者は少ない状況です。そこで、女性のさらなる能力発揮と経営参画を推進するために、研修会等により経営参画意欲の醸成を行いました。

○対象概況

女性認定農業者 17 名、若手女性農業者 52 名、農村女性グループ員 34 名
女性農村アドバイザー 9 名、緑の風（女性農村アドバイザーOB） 6 名

○活動内容

女性農村アドバイザーOBの視察	1 回
田川、福岡地区の女性農業者との交流会	1 回
経営者育成塾	4 回
認定農業者制度、共同申請の推進	13 回
女性農業者ベンチャー事業の推進	1 回
女性農業者の起業に向けた専門家派遣	4 回



田川、福岡地区との女性農業者交流会

○成果

- 1 2名の女性農業者がビジネスプランを作成し、SNSの活用による新規顧客の獲得や、農産加工品の単価、販売目標個数の設定など、今後の事業戦略を明確にすることができました。
- 2 新たに2名の女性農村アドバイザーが認定されました。
- 3 女性認定農業者が4名増えました。
- 4 1名の女性農業者が、自社イチゴの販路拡大に向け、専門家の助言をもとにイチゴを使った旅行客向けのお土産品を試作しました。



ビジネスプラン発表会

○今後の取組

女性の経営課題に応じた研修会を開催し、資質向上や相互の交流、研鑽を進めることで、地域をリードする女性農村アドバイザーを育成します。

また、認定農業者制度や家族での共同申請等を周知、推進することで、女性の認定農業者の増加を目指します。



専門家との商品化打ち合わせ

(4) ふくおかエコ農産物認証制度の栽培面積拡大

○概要

管内では宮若市を中心にふくおかエコ農産物認証制度の申請件数が増えてきています。また、J A直鞍では認証制度を活用し、自然にやさしくおいしいブランド米として「わざあり米」を直売所等で販売を行っています。そこで環境保全型農業及び地産地消の更なる推進を図るため、認証制度の栽培面積拡大に取り組みました。

○対象概況

宮若市水稻作付面積 1,080ha
(令和4年統計年報)

○活動内容

うまい米づくり協議会に向けた栽培指針を作成	1回
ふくおかエコ農産物認証制度に対応した栽培こよみ講習会の実施	1回
J A広報誌にふくおかエコ農産物認証制度の紹介記事を掲載	1回
申請に向けた個別支援 (制度や農薬・化学肥料に代わる代替技術の説明等)	随時



J A広報誌の掲載記事

○成果

ふくおかエコ農産物認証制度の紹介記事をJ A広報誌に掲載し、さらに栽培計画の策定や申請書類の作成などについて個別に支援したことで、新たに4件の新規申請があり、令和6年度の取組面積は82.0haで、令和4年度に比べて12.4ha増加しました。



ふくおかエコ農産物認証制度申請手続き支援

○今後の取組

J Aふくおか嘉穂でも、特裁米栽培部会が認証制度に取り組んでおり、米の有利販売を行っています。今後も環境保全型農業及び地産地消の更なる推進のため、管内のふくおかエコ農産物認証制度に取り組む生産者の支援を続けながら、より一層の取組面積の拡大を推進します。

(5) イチゴの単収向上と担い手の育成による産地の活性化

○概要

イチゴ「あまおう」の単収向上を図るため、定期的な栽培技術講習会や課題別研修会の開催、栽培管理情報の発信などに取り組みました。

また、産地の将来の担い手となる青年農業者や新規就農者を重点対象者と位置づけ、個別課題の設定を行い、課題解決に向けた講習会や先進地視察を行いました。

○対象概況

J A直轄イチゴ部会	22 名	5.8ha	(うち重点対象者 7 名)
J Aふくおか嘉穂イチゴ部会	48 名	7.4ha	(うち重点対象者 7 名)

○活動内容

1 栽培技術の向上	
栽培技術講習会	11 回
課題別研修会	2 回
育苗期の現地視察	1 回
栽培管理情報の発信	12 回
2 担い手の育成	
ほ場づくり現地講習会	1 回
栽培講習会、現地互評会	1 回
高収量者先進地視察	1 回
個別課題の面談	各 2 回



ほ場づくり現地講習会



高収量者先進地視察

○成果

- イチゴ生産者 70 戸のうち、12 戸が前年対比 110%の単収を達成しました。
- 重点対象者 12 名が前作等の反省を元に個別に設定した病虫害対策や厳寒期の草勢管理などの目標達成しました。その結果栽培技術の習得や単収向上が図られました。

○今後の取組

産地の課題解決に向けた講習会の開催や視察研修を実施するとともに、重点対象者の栽培技術の早期習得や経営安定に向けた研修会の開催、個別面談、情報の発信などを継続し、更なる「あまおう」の収量・品質向上と担い手の育成を図ります。

(6) アスパラガスの生産技術の高位平準化による産地強化

○概要

飯塚地域では、10a 当たり 4 トン以上の高収量農家がいる一方、平均収量が低いため、産地全体の栽培技術の高位平準化に向けた取組を行いました。また、新規生産者の経営の早期安定化に向けて、行動目標を定めたビジネスプランの作成やその達成に向けて個別に支援を行いました。

○対象概況

J Aふくおか嘉穂アスパラガス部会 25 戸 290 a
うち 新規生産者(植付 5 年未満生産者) 8 戸

○活動内容

1 収量向上と品質改善による収益性向上

管理情報の発行	3 回
土壌分析	8 回
茎糖度調査	25 回
現地検討会	5 回
展示ほ設置	2 か所
ほ場の定期巡回	全戸×月 1 回

2 新規生産者の経営の安定化

個別成績書作成・提案	全戸× 2 回
ビジネスプラン作成支援	2 戸
ビジネスプラン達成支援	4 戸



現地検討会

○成果

- 令和 6 年度の部会平均収量は、夏季の異常高温等のため減少し、2.2 t /10a(前年比 92%)でしたが、現地検討会でのスリップスの適期防除指導や土壌分析に基づく施肥改善等を通じて、7 戸が昨年を上回る収量を実現しました。
- 新規生産者 8 名のうち 2 名が新たにビジネスプランを作成し、作成者は計 6 名となりました。また、既作成者 4 名のうち 2 名がビジネスプランに掲げた排水対策や雇用導入等の行動目標を達成しました。



ビジネスプラン作成支援

○今後の取組

土壌分析や収量のデータをもとに個別課題の改善に向けた栽培指導や、ビジネスプラン作成支援・作成後の伴走支援を行うなど、産地強化に向けた支援を引き続き行います。

(7) 花きの次世代の担い手育成

○概要

管内の若手花き生産者は経営の安定化に課題を抱えており、経営方針決定に必要な情報や生産技術の収集も不足していました。そこで、個々の課題特定と目標設定を促すための経営改善計画作成支援に加え、栽培技術習得支援、高温対策技術勉強会、雇用・販売流通に関する研修会を実施しました。

○対象概況

就農 10 年未満の若手花き生産者 8 名

○活動内容

- | | |
|------------------|--------|
| 1 個別経営支援 | |
| 個別面談の実施 | 3 回/人 |
| 個別巡回指導 | 11 回/人 |
| 2 経営改善活動実践支援 | |
| 花き技術勉強会 | 1 回 |
| (高温適応栽培への転換) | |
| 視察研修会 | 1 回 |
| (花き流通と消費動向について) | |
| 雇用研修会 (短期雇用について) | 1 回 |



花き技術勉強会

○成果

- 1 新たに 1 戸が経営改善計画を作成し、計画作成数は合計 8 戸となりました。巡回指導を通して、労働力不足や売上目標の未達といった課題に取り組み、5 戸が目標を達成しました。
- 2 塗布型遮光資材などの高温対策資材を活用した栽培技術が導入されました。また、視察研修会では、市場ニーズの高い花きに関する知見を深めました。さらに、若手農家 1 戸がスポット雇用を導入し、繁忙期の労働力不足の解消につながりました。



視察研修会

○今後の取組

経営改善計画の目標が未達成の生産者に対しては、先進地視察等や栽培指導に加え、財務分析に基づく収支改善計画策定支援といった経営指導を継続的に実施することで、栽培技術の向上と経営の安定化を図ります。

(8) 果樹優良品種及び施設面積の拡大

○概要

ブドウ・イチジクは管内の果樹において主要な品目ですが、近年着色不良や露地栽培での病害対策等が課題となっています。そこで、高品質安定生産を目指し、優良品種の導入及び施設面積の拡大に向けた取組を行いました。

○対象概況

J A直鞍 ぶどう部会 68 名 62.1ha、いちじく部会 21 名 1.9ha
J Aふくおか嘉穂 ぶどう部会 26 名 12.1ha、いちじく部会 41 名 7.0ha

○活動内容

1 優良品種の拡大

栽培管理講習会	8 回
J A広報誌による周知	2 回
改植事業説明会	2 回
新規栽培希望者説明会	2 回
個別推進	随時

2 施設栽培の拡大

栽培管理講習会	4 回
推進資料の更新(経営試算)	2 品目
果樹部門会議	1 回



優良系統巨峰(上左)、一般的な巨峰(上右)

優良系統ピオーネ(下左)、一般的なピオーネ(下右)

○成果

- ブドウの優良品種〔巨峰（優良系統）、ピオーネ（優良系統）シャインマスカット等〕が約 67a、イチジクの優良品種（とよみつひめ）が約 20a 新たに導入されました。
- ハウスやトンネルの施設栽培面積はイチジクで約 20a（3 戸）増加しました。



ハウスで導入された「とよみつひめ」

○今後の取組

優良品種の拡大については、新規栽培希望者を掘り起すため、これまで果樹栽培経験のない水田農業者等に対しても推進します。施設栽培の拡大については、補助事業の周知や空きハウス等の情報収集及び提供により導入コストの低減を図ります。

(9) カンキツの生産拡大

○概要

J A直轄管内で新たな品目としてレモン、はるみなどのカンキツの産地化に取り組んでいます。出荷先は、J A、直売所、飲食店への直接販売など多岐にわたっており、レモンでは実需者に認知してもらえるようブランド化の取組が始まりました。

○対象概況

J A直轄 かんきつ部会 7 名 1.1ha
新規品目導入意向農家

○活動内容

- 1 既存農家への支援
栽培管理講習会 2 回
栽培暦作成・配布 1 回
- 2 新規栽培者の掘起し
J A広報誌への掲載 1 回
新規栽培希望者説明会 1 回
- 3 レモンのブランド化検討会
ブランド検討会の開催 4 回



中山間地のレモンほ場

○成果

- 1 新規にレモンを栽培する生産者が 1 名増え、既存生産者の規模拡大と併せて面積は 32 a 増加しました。
- 2 レモンの J A出荷量は 3.3 t、この他に直売所での販売や飲食店、量販店などへの直接販売は 3 t まで増加しました。
- 3 宮若市内においてレモンのブランド化に向けた検討の場ができ、知的財産の専門家と連携して支援を行いました。



ブランド化検討会

○今後の取組

カンキツの安定生産のための技術支援や新規栽培者への推進を継続します。また、レモンのブランド化は、引き続き専門家や関係機関と連携して支援していきます。

(10) 中長期計画に基づく酪農経営の生産基盤強化

○概要

配合飼料や輸入粗飼料、関連資材等が高騰し続ける厳しい情勢の中、酪農経営の基盤強化を図るため、それぞれの経営スタイル・経営目標（中長期計画）に応じ、酪農生産性向上・良質生乳生産・自給飼料品質向上等の支援を行いました。

○対象概況

飯塚農林事務所管内の酪農家 16 戸
うち酪農中長期計画を作成した 11 戸

○活動内容

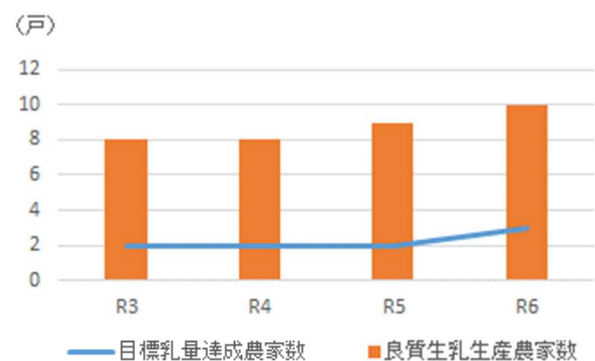
- 1 中長期計画達成への支援
中長期計画（総乳量、1 頭当たり乳量向上）実践への支援 11 戸×2 回
繁殖改善・飼養管理改善指導 11 戸×3 回
- 2 良質自給粗飼料生産の支援
粗タンパク質（C P）向上を目的としたイタリアンライグラス展示ほの設置 1 カ所
- 3 安全・安心な生乳生産の支援
衛生管理巡回指導・チェックシート巡回等 2 回



生育良好な河川敷イタリアン草地

○成果

- 1 今期（3 か年）中で目標乳量達成農家数が 1 戸増加しました（計 3 戸）。
- 2 粗タンパク質（C P）含量 10% 以上の自給飼料を生産した農家数が 5 戸となりました。
- 3 1 年間を通して出荷乳体細胞数が“ノー”ペナルティである良質生乳生産農家が 1 戸増の 10 戸となり、全体の 6 割を超えました。



○今後の取組

今期で目標が達成できなかった生産者に対しては引き続き支援を継続するとともに、情勢・経営形態に合わせた見直しを行った上で目標を再共有し、経営継続可能な酪農経営への支援を関係機関と連携して行っていきます。

2 トピックス

(1) 雇用労働力の導入に新たな手段

近年、家族だけでは一時的に労力が足らなくなったとか、経営規模を拡大したいけれど収穫・調整の人手確保がネックだという場合の対応として、従来からのアルバイト・パート雇用に限らず、外国人技能実習制度の活用や農福連携型の作業委託など、外部労働力の導入形態が多様化しています。また最近、農業分野でも民間事業者による短期アルバイトのマッチングサービスが行われるようになりました。そうした中で、雇用導入による担い手農家の規模拡大を支援するため、飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会の主催により、11月下旬に雇用研修会を開催しました。



バイトアプリのイメージ画像

研修会では、まず経営者が知っておくべき雇用管理の基本について専門家の講演が行われ、様々な雇用形態に応じた長所や注意点について理解を深めました。さらに、農業に特化した短期アルバイトのマッチングアプリについて、運営会社から実際にスマホの操作画面を示しながら、詳しく説明がありました。

参加者アンケートでも好評で、さっそくこのアプリを利用してアルバイトを雇用した方もおられました。

(2) 大豆品種「ふくよかまる」への全面更新に向けた取組

飯塚地域では、令和7年から大豆の品種を「フクユタカ」から「ふくよかまる（ちくしB5号）」に一斉に切り替えることとしています。これまで普及指導センターでも、品種転換に向けて「ふくよかまる」の栽培展示ほ設置や現地検討会を行ってきましたが、いよいよ全面更新を迎えることから、令和7年



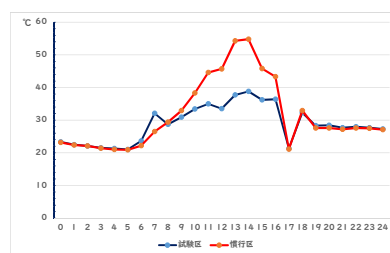
ふくよかまる栽培に関する講演

1月に飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会の主催で、地域の生産者等を対象として技術研修会を開催しました。研修会では、県農林業総合試験場の研究員が「ふくよかまる」栽培の要点について講演し、「ふくよかまる」は6月下旬から播種できるため、「フクユタカ」に比べて播種適期が長く収量が安定することや、収量が8%程度多いこと等が説明されました。

令和7年の全面更新に向け引き続きJA等と連携して、栽培こよみの作成、播種前講習会、現地検討会等を実施し、大豆の安定生産を支援していきます。

(3) イチゴの普通作型における遮光効果の検討

近年、夏の異常高温により、イチゴの普通作型（9月下旬定植）における花芽分化が遅れ、定植の遅れや未分化定植などが発生し、収量低下の一因となっています。そこで、普通作型を安定して花芽分化させるために、育苗後半に遮光を行い、効果を検討し



遮光による気温の変化（直射）

ました。慣行区は遮光なしで管理し、試験区は8月19日から遮光率40%の寒冷紗を設置しました。その結果、晴天時、いちごの葉付近の温度を最大で約15度下げることができ、照度も晴天時で慣行区約9～10万luxに対し、試験区で4～5万luxと50%程度落とすことができました。

その結果、花芽分化については、9月25日時点では両区とも未分化でしたが、9月30日時点では、試験区のみ分化が確認できました。

遮光により花芽分化の前進が確認できましたが、従来の普通作型の花芽分化時期である9月25日時点での安定した花芽分化を確立するために、今後は、最終置き肥の時期や液肥散布方法を併せて検討していきます。

（４）スマート技術を活用したシャクヤクの収穫適期判別方法の検討

シャクヤクの美しい花を咲かせるためには、収穫時期を見極めることが重要で、収穫適期を誤ると、花屋での開花率が低下して商品価値が下がります。しかし、経験と勘に頼る従来の方法では、良好な開花率を保つことが難しいという課題がありました。

このため、普及指導センターのDX推進班では、スマート技術導入の一環として、シャクヤク栽培における収穫適期判定システムを開発しました。このシステムでは、シャクヤクの蕾100個分の画像データをAIに分析・学習させた結果、収穫適期を高い精度で判定できるようになりました。

今後、シャクヤクの品種別出荷規格表の見直しなど、このシステムの現地活用に取り組み、産地評価の向上を推進します。



AIが開花率を判定した「白妙」の開花する蕾（左）と開花しない蕾（右）

（５）冷蔵シャインマスカットの販売に向けた取組

シャインマスカットをクリスマスや年末年始にも販売することを目指し、JAふくおか嘉穂ブドウ部会や関係機関が連携して長期冷蔵保存試験に取り組んでいます。昨年度普及指導センターが実施した果房毎に直接給水する方法では、給水にかかる労力が過大



冷蔵シャインマスカット試食会

であったため、今年度は給水が不要な鮮度保持袋の使用による貯蔵性を検証しました。評価にあたっては、果実品質の調査と併せ、ブドウ部会員や関係機関の職員が参加する試食会を開催し、果粒の張りや穂軸の色などの外観や食味について評価を行った結果、概ね好評価を得ることができました。部会員からは次年度以降の取組に前向きな声が多く聞かれ、次年度以降の販売に向けた意欲も高まりました。

また、JAふくおか嘉穂のファーマーズマーケットで約20房を試験販売し、消費者からも「品質がよい」、「来年度も購入したい」、などの声が聞かれました。

果実品質の調査や試食会、試験販売の結果をブドウ部会と共有し、次年度からの本格販売を目指します。

3 各種表彰

表彰事業名	受賞者 (敬称略)	受賞内容	市町名
第24回福岡県農林水産まつり 農林水産賞（畜産部門）	畠中五恵子	名誉賞	飯塚市
第24回福岡県農林水産まつり 農林水産賞（農産部門）	辻田光之	優秀賞	嘉麻市
令和6年度福岡県青年農業者会議 プロジェクト発表	辻諒太	優良賞	嘉麻市
	渡邊天平	優良賞	宮若市
令和6年度福岡県花き品評会 トルコギキョウ 技術・ほ場の部	石田豊隆	福岡県花き市場 協議会長賞	直方市
	合同会社 ファーム貞光	久留米花卉園芸 農業協同組合長賞	直方市

第24回福岡県農林水産まつり名誉賞を受賞

飯塚市 畠中五恵子氏

有限会社畠中育雛場 代表取締役 畠中五恵子氏は、第24回福岡県農林水産まつりにおいて、農林水産賞 畜産の部で名誉賞を受賞されました。

育雛主体の経営から採卵・加工へと事業の多角化を図り、直販を中心にネット販売や直売施設の運営にも力を入れ、平成22年には「たまごご飯カフェ」を開設するなど農業経営を発展させてきたことや、社員・従業員の大半を女性が占める中で、働きやすい職場づくりを進め、女性の活躍推進を積極的に図っていることが評価されました。



畠中五恵子氏（左から2人目）

第24回福岡県農林水産まつり優秀賞を受賞

嘉麻市 辻田光之氏

嘉麻ふれあいファーム株式会社 代表取締役 辻田光之氏は、第24回福岡県農林水産まつりにおいて、農林水産賞 農産の部で優秀賞を受賞されました。

土地利用型作物を中心とした法人経営で、地元企業と提携して、「嘉麻ひすい」のブランド名で豆腐や納豆等の商品化を行う等、地域農業の活性化に積極的に貢献していることや、指導農業士として新規就農者の研修受け入れや育成指導に尽力するなど、地域・県域の農業振興に貢献していることが評価されました。



辻田光之氏（右側）

福岡県青年農業者会議のプロジェクト発表の部で優良賞を受賞

辻諒太氏（嘉麻市）と渡邊天平氏（宮若市）が、令和6年度福岡県青年農業者会議プロジェクト発表の部において、優良賞を受賞されました。

嘉麻市 辻諒太氏

辻氏は「新たな防除形態で安定的な蜂群生産を目指す」と題し、女王蜂の隔離とシュウ酸を用いたダニ駆除法により、ミツバチの消失群数を150群から60群に削減、蜂蜜生産量も増加したことを報告しました。この新手法は他の養蜂家での活用も期待されています。

養蜂になじみのない聴衆にも理解しやすいようスライド作成に注力し、明瞭な発表を行ったことが評価され、令和7年度九州ブロック大会の福岡県代表に選出されました。



辻諒太氏

宮若市 渡邊天平氏

渡邊氏は「新規品目ノゲイトウへの挑戦」と題し、メインの花に添える花材として、ノゲイトウの新たな可能性に着目し、市場ニーズの分析から販売戦略の検討と実際の利益率やコストの計算まで行い、本当に導入価値のある品目であるかを緻密に検討した一連の経過について発表しました。質疑応答にも的確に回答してレベルの高い発表であったと評価され、受賞となりました。



渡邊天平氏

福岡県花き品評会技術・ほ場の部(トルコギキョウ)で2氏が受賞

直方市 石田豊隆氏、合同会社ファーム貞光

令和6年度花あふれるふくおか推進協議会主催の品評会において、直方市の石田豊隆氏が「ボンボヤージュホワイト」で福岡県花き市場協議会長賞を受賞され、4年連続入賞されました。

また、同市の合同会社ファーム貞光が「セレブピンク」で久留米花卉園芸農業協同組合長賞を受賞され、初めての出品で見事入賞されました。



石田豊隆氏の
ボンボヤージュ
ホワイト



合同会社
ファーム貞光
の貞光遥輝氏

令和6年度ふくおか6次化商品セレクション 飯塚地域の受賞商品について

県知事賞 3種のふくのこジェラート ー博多あまおう、博多甘うい、まるごと巨峰ー
出品者 CHICHIYA（直方市）

- ・直方市を中心に作付けされる水稻「ふくのこ」の米粉と直方市産フルーツを使用した、乳製品が食べられない人も食べられる米粉ジェラート
- ・滑らかな食感とふんだんに使用された果物の風味が特徴



福岡県商工連合会会長賞 めろん奈良漬（大里酒造 × ヤマオカサンチ）

出品者 大里酒造株式会社（嘉麻市）

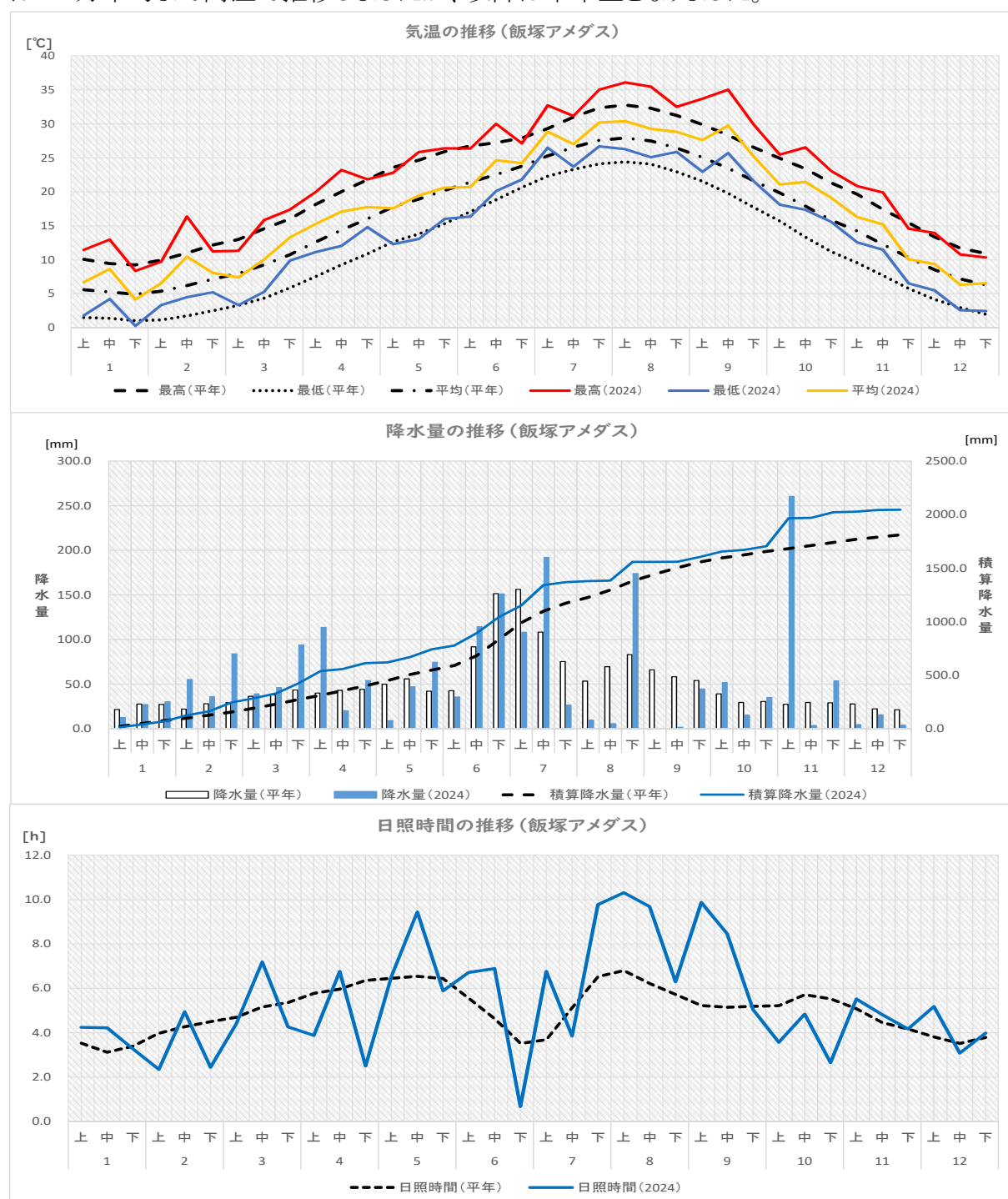
- ・嘉麻市産の間引きメロンと県産米の酒粕を使用した奈良漬
- ・砂糖不使用で、濃厚でまろやかな味が特徴



4 令和6年気象・農業生産の概要

(1) 気象概況

1～4月は、平年より気温は高く、降水量は多く、日照時間は短くなりました。5月は、気温、降水量は平年並で日照時間は多くなりました。6～7月は、気温は高く、日照時間は6月下旬を除き多く、降水量は梅雨入りした6月17日頃から梅雨明けした7月17日頃にかけてまとまった降雨があり、多くなりました。8～9月は、非常に高温で推移し、梅雨明け後から9月下旬までほとんど降雨がありませんでしたが、8月29～30日にかけて台風10号の影響を受けてまとまった降雨がありました。10～12月は、11月上旬に季節外れの大雨があり、気温は11月中旬まで高温で推移しましたが、以降は平年並となりました。



＜気象災害＞

令和6年の気温は年間を通して高温傾向で推移し、特に7月下旬～9月下旬にかけて平年より3℃程度高く、大豆や露地野菜の発育不良、ブドウの着色不良等が発生しました。8月下旬には台風10号接近にともなう大雨強風により、早期水稲と大豆の倒伏、ナシやリンゴの落果、防風ネット等の一部破損が確認されました。11月上旬の大雨では、鞍手町でブロッコリーの一部が冠水しましたが、大きな被害には至りませんでした。

普及指導センターでは豪雨の発生、台風の接近、寒害・雪害などの発生が予想される時には、技術対策情報を生産者や関係機関あてに発信し、災害発生の軽減に努めました。

今年発生した主要な気象災害(表1)および技術対策情報(表2)は以下のとおりです。

表1 主な対象災害と影響（令和6年）

時 期	種 類	影 響
8月29 ～30日	台風10号 日積算降雨量108mm/日 最大瞬間風速8.9m/s	・早期水稲：直鞍地区を中心に倒伏 275ha 被害程度 微 ・大豆：倒伏20ha 被害程度 微 ・露地ナス：防風ネット破損等 2戸 ・ナシ：落果1%程度 被害程度 微 ・リンゴ：落果1%程度 被害程度 微 ・イチジク：ハウスビニル破損 1戸 ・露地キク：茎・葉のスレ0.3ha 被害程度 微
11月1 ～2日	大雨 日積算降雨量129mm/日	・ブロッコリー：鞍手町を中心に冠水 3ha 被害程度 微

※温度や風速の数値は全て飯塚アメダスデータを利用

※被害面積・件数は普及指導センター調べ

表2 普及指導センターから発信した技術対策情報（令和6年）

発信日	内 容
1月23日	農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策
6月27日	梅雨期の大雨に対する農作物等への技術対策
8月2日	長期間の高温に対する農作物等の技術対策
8月27日	台風10号接近に伴う農作物等の技術対策
11月1日	11月2日にかけての大雨による農作物等に対する技術対策

(2) 農業生産の概況

＜普通作＞

○早期水稻は平年並み～やや良、普通期は不良で、上位等級比率は低迷

早期水稻は、移植後に平年より気温が高く推移したため、生育は順調に進みました。梅雨入りは平年より 13 日遅く、茎数は十分確保されましたが、6 月下旬～7 月中旬の日照時間が少なかったため、穂数は平年並みとなりました。

普通期水稻は、6 月下旬～7 月中旬の多雨、寡照により茎数、穂数がやや少なく、さらに梅雨明け後～9 月中旬まで続いた高温の影響で、不稔粒の多発と登熟不良により低収となり、検査等級では例年になく 3 等と規格外の割合が多くなりました。

紋枯病は昨年に続き、高温の影響で多発し、一部のほ場では上位葉や穂まで枯れる株が発生しました。

○令和 6 年産麦は、近年にない不作だったが、大麦は県内 J A で 1 位の単収

播種は、11 月中旬に始まりほぼ適期に播き終わりました。しかし、1 月中旬～2 月末にかけて平年より高温多雨で経過したことから、踏圧等の中間管理作業が十分に実施できず、3 月以降も高温多雨であったことから、茎数は少なく、湿害や枯熟れ様障害（成熟期に入ると葉が急速に枯れ始めるため穂や子実が生育不良となる現象）、黄斑病、網斑病の発生ほ場が散見されました。



枯熟れ様障害の大麦

出穂期以降も高温多雨であったことから赤かび病の発生が懸念されましたが、防除が確実に行われた結果、収穫子実への赤かび粒の混入はありませんでした。大麦、小麦とも 10a 当たりの収量（単収）は、平年より少なくなりましたが、大麦は県平均単収を大きく上回り、県内 1 位の単収となった J A がありました。検査等級は大麦、小麦とも 1 等でしたが、品質のランク区分では、小麦の容積重と灰分の項目で基準に達せず、B ランクとなった J A がありました。

○大豆は、過乾燥による出芽不良と生育抑制により不作

播種期に降雨が多く、7 月 20 日の適期までに播種されたほ場は播種予定面積の 10% 未満でした。本格的に播種が始まったのは梅雨明け以降でしたが、高温乾燥により、出芽不良が多発しました。その後も乾燥が続いて生育が抑制され、単収は平年より少なくなりました。また、生育が抑制されたことから生育量に比べて着莢数が少なくなり、落葉～収穫時期が平年より遅くなったため、大豆後の麦播種に影響しました。

＜野菜＞

○花芽分化遅れや炭疽病が多発したイチゴ

育苗期は、高温による影響で、根傷みが多く発生しました。また、普通作型の花芽分化が遅れ、主に9月30日以降の定植となりました。

定植後は、炭疽病による枯死が多発、加えてヨトウムシ類の加害が年明けまで発生しました。出荷は11月上旬から始まりましたが、定植遅れに加え、高温による小玉傾向や炭疽病による欠株等により、2月上旬までの出荷量は前年比70%となりました。



育苗現地講習会

○天候に苦労したものの昨年並みを確保した夏秋ナス

4月は降雨多く、ほ場準備がなかなかできず、土壌条件不良下での定植となったほ場がありました。また、定植は5月上旬を中心に行われましたが、低温のため、初期生育は緩慢でした。

その後、梅雨期の大雨、日照不足により花落ちや褐色腐敗病が発生し、梅雨明け後は猛暑のため異常果の多発、樹勢の低下がみられましたが、栽培管理の徹底により、11月中旬頃まで出荷を継続し、前年比97%の出荷量が確保できました。



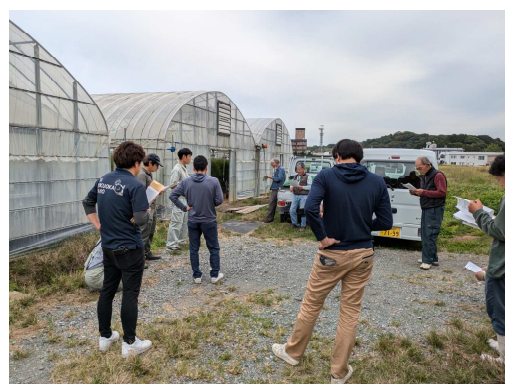
定植前講習会

○異常高温等の影響を受けたアスパラガス

出荷開始は平年並みの2月上旬でしたが、3月下旬から日照が少なく推移し、ハウス内温度が上がらず、春芽出荷量は昨年を下回りました。

立茎は順調に行われましたが、梅雨明け以降、異常高温が続き、穂先の開きや細芽、曲がりなどの異常茎が多発しました。

加えて、高温傾向のため、斑点性病害が早期から発生し、9月以降にはヨトウムシ類が多発しました。このため、夏芽出荷量も減少し、総出荷量は前年比94%となりました。



現地栽培講習会

＜花き＞

○高温、大雨の影響を受けた露地ギク

4～5月、7月以降に気温が高く推移した影響で生育は前進化し、6～7月出荷の作型は出荷が早まり、8～9月出荷と11月出荷は開花遅延傾向でした。また、梅雨時期及び8月末に降水量が多かったことで、病気に弱い品種を中心に斑点細菌病が発生しました。ヨトウムシ類の飛来も多く、蕾への被害が一部で発生しましたが、キクの品質に大きな影響はありませんでした。病害の発生により出荷本数は減少傾向で、販売単価は、6～12月を通して平年並かやや高く推移しました。



発蕾した露地ギク

○出荷が拡大したケイトウ

生育期から出荷時期（7月下旬～8月中旬）にかけての降水量が少なく、一部ほ場では、草丈の低下や品質劣化が見られました。また、7月上旬の豪雨では、支柱が傾いたことによる倒伏や茎曲がりの一部が発生しました。

ケイトウの出荷本数は、新規作付者の増加により前年をやや上回りました。



収穫直前のケイトウ

○高温で前進開花したトルコギキョウ

11～12月出荷作型のトルコギキョウは、定植後、9～10月の気温が平年を上回った影響で、開花が早まるとともに、一部の品種で短茎化や軟弱化といった影響が見られました。また、コナジラミやヨトウムシ類の発生が平年より増加しました。このような中、需要は前年に引き続き多く、高単価での販売につながりました。



収穫中のトルコギキョウ

＜果樹＞

○結実良好であった一方、高温、着果過多の影響で着色不良が目立ったブドウ

トンネル、露地栽培の満開日は5月22日頃であり、概ね平年並みでした。

本年の結実は概ね良好でしたが、一部の加温ハウス栽培では結実不良がみられました。

糖度、酸度等の果実品質は良好でしたが、結実の良さが着果過多につながったことや、夜温が高かった影響により、「巨峰」等では着色不良が目立ちました。また、一部の園では晚腐病、べと病の発生や鳥獣害の被害がありましたが、概ね平年並みの出荷量が確保できました。



着色不良の「巨峰」

○小玉果や日焼け果等の発生により、出荷量が少なかったカキ

「富有」の満開期は5月16日頃で、昨年より3日程度遅く、概ね平年並みでした。

着蕾は平年並みであったものの、果実肥大は梅雨明け以降の高温乾燥の影響により不良でした。

また、強日照による日焼け果や、カメムシ、フジコナカイガラムシの被害果が目立ったため、出荷量は平年を大きく下回りました。

○異常高温の影響で小玉傾向となったイチジク

露地栽培の発芽日は4月11日頃で昨年よりも3日程度遅くなったものの、収穫開始は平年並みでした。

幼果期からの極端な高温乾燥の影響により、小玉傾向で果実の着色も劣りました。高温が続いたことから一部施設では7月中旬に生理落果が発生し、収穫初期に成熟異常果の発生もみられました。病虫害が目立った発生はありませんでした。



イチジク「とよみつひめ」

○小玉傾向と生理障害等の発生により、出荷量が減少したナシ

開花前が低温傾向であったため、「幸水」の満開期は4月9日頃と昨年、平年に比べて遅くなりました。結実はやや平年並みでしたが、7月が少雨傾向であったため、果実肥大は「幸水」を中心に小玉傾向でした。

また、夏季の高温乾燥の影響により、吸蛾類の発生が目立ったほか、「新高」を中心に水浸状果が発生し、早期落果が多発した園もみられたため、出荷量は平年を下回りました。

＜畜産＞

○飼料価格・資材等の高止まりが続き、酪農経営の圧迫で戸数・出荷乳量減少

担い手の高齢化、後継者が不足する中、令和6年はこれまでと同様に生産資材価格や飼料価格は高止まりで推移したため、管内の飼養戸数は15戸^{※1}（前年比1戸減）、飼養頭数^{※2}は905頭となり、令和6年の出荷乳量^{※3}も、前年より341t減の5,253tとなりました。

さらに、11月に本県において国内初の牛の「ランピースキン病」が発生したことにより、他県の家畜市場が主な出荷先である「福岡県産」子牛の出荷が自粛となり、一時的に出荷仕向の子牛が牧場に滞留する状態となりました。

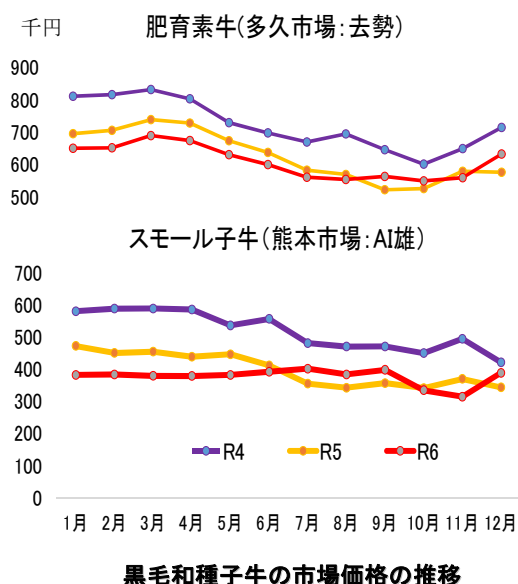
（※1・2は福岡県調べ、※3はふくおか県酪協調べ）

○黒毛和種繁殖雌牛の飼養頭数は県内トップ、しかし子牛価格は下落が続き、経営を圧迫

管内では、和牛繁殖雌牛の飼養頭数が増加しています。令和6年の飼養戸数は28戸、飼養頭数は1,094頭（県全体の35.7%）となりました。

しかし、和牛子牛の市場価格は、肥育素牛（9～10か月齢）やスモール子牛（3～4か月齢）は食肉消費の低迷等により下落しました。

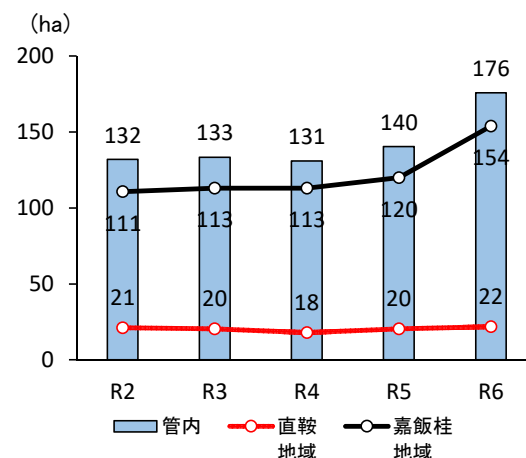
また、近年の生産資材の高騰、配合飼料や購入粗飼料価格の高止まりが、黒毛和牛繁殖農家の経営を圧迫し続けている状況でもあり、また12月より「ランピースキン病ワクチン接種推奨20km圏内」に入った農場においては子牛が出荷できない状況となりました。



○飼料用イネの作付面積は増加

管内では、植物体で光合成された糖分が茎葉に蓄積され、牛の嗜好性や消化率が高くなる極短穂型（穂が短く籾の収量が少ない）専用品種を推奨しており、「つきすずか」等を中心に作付けされています。

飼料用イネの作付面積は、近年130～140haで推移していましたが、令和6年は176haに拡大しました。



飼料用イネ作付面積の推移

5 参考資料

(1) 現地実証・展示ほ一覧

No.	品目	課 題 名	結 果 の 概 要	場所
1	水田	水稻「夢つくし」に代わる新品種の検討	新系統「ちくし 102 号」は「夢つくし」に比べて、出穂期は 1 日早く、成熟期は同程度だった。倒伏はやや弱く、収量は約 9 % 多収で、食味は同程度だった。	直方市
2	農業	大豆「ふくよかまる (ちくし B5 号)」における地域資源循環肥料の適応性	地域資源循環肥料である「レコアップ 500」、「e g r e e n 4420」を慣行の「ベスト化成 444」と比較検討した結果、大豆「ふくよかまる」の収量は、いずれも慣行に比べて少なかった。	嘉麻市
3	野菜	高温条件下におけるイチゴ普通作型の花芽分化安定技術の検討	8 月下旬から 40%の遮光資材を被覆することで、高温条件下でのイチゴ花芽分化を早めることができた。また、9 月上中旬から約 2 週間程度の低温暗黒処理を行うことで、花芽分化を早め、収穫開始時期を早めることができた。	飯塚市 鞍手町
4	野菜	アスパラガスのかん水・肥培管理の違いが夏芽の生育に及ぼす影響	アスパラガス多収生産者のかん水、肥培管理の特徴を調査した。多収生産者は、少量多回数かん水を徹底し、土壌水分の変動少なく管理していた。施肥も立茎以降定期的に行い、適正值 (硝酸態窒素 15mg/100g 以上) が維持されていた。	飯塚市 嘉麻市
5	花き	スカビオサにおける遮光資材の有効性の検討	7 月上旬に遮熱資材を塗布すると、スカビオサの開花は慣行の 10 月初旬より 2 週間前進化したが、秋 (9 ~12 月) の収量は増加しなかった。また、白色遮光剤の塗布により、慣行より開花が 3 週間前進化し、秋の収量も増加した。	嘉麻市
	花き	シャクヤクの収穫判断技術の検討	AI を活用し、シャクヤクの収穫適期を約 90%の精度で判定できるシステムを開発した。さらに、AI の判定基準を分析し、それに基づいた新たな「出荷規格表」を作成した。	宮若市
6	花き	竹チップ牛糞堆肥の施用によるシャクヤクの品質への影響	竹チップ牛糞堆肥をシャクヤク株元に施用することで株間の抑草効果が確認された。ただし、萌芽数、開花時の品質や収量へ及ぼす影響は判然としなかった。	宮若市
7	花き	リンドウ新系統の現地適応性 (9 月出荷作型)	彼岸出しのリンドウ有望系統である「Y-E」他 2 系統を 5 月に定植し、9 ~10 月の開花を確認した。品質、収量が安定する次年度以降、切り花品質や収量について調査を実施予定。	宮若市
8	果樹	ブドウ「シャインマスカット」の貯蔵試験	シャインマスカットの省力的な長期貯蔵技術の確立に向け、鮮度保持袋を用いて、約 3℃で 9 月上旬から 12 月下旬まで保存した。その結果、長期保存した果実の外観、食味が維持され、鮮度保持効果が確認された。	飯塚市 嘉麻市
9	果樹	ナシ「玉水」の摘心処理による果実肥大への影響調査	ナシ「玉水」の肥大促進を図るため、新梢伸長期の側枝摘心処理が果実肥大、品質に及ぼす影響を調査したが、その影響は判然としなかった。	嘉麻市
10	畜産	イタリアンライグラスの収量及びタンパク含量向上に向けた施肥の検討	河川敷草地において、冬作イタリアンライグラスの基肥量を変えて比較栽培を行った。生草及び乾物収量については、基肥区 (7.21kg/m ² 、1.18kg/m ²) が慣行区 (6.47kg/m ² 、0.85kg/m ²) を上回った。また、粗タンパク質 (CP) 含量は収穫時期の遅れからそれぞれ 6.4 %、6.9%と大きな差はなかった。	直方市 河川敷

(2) 現地活動情報一覧

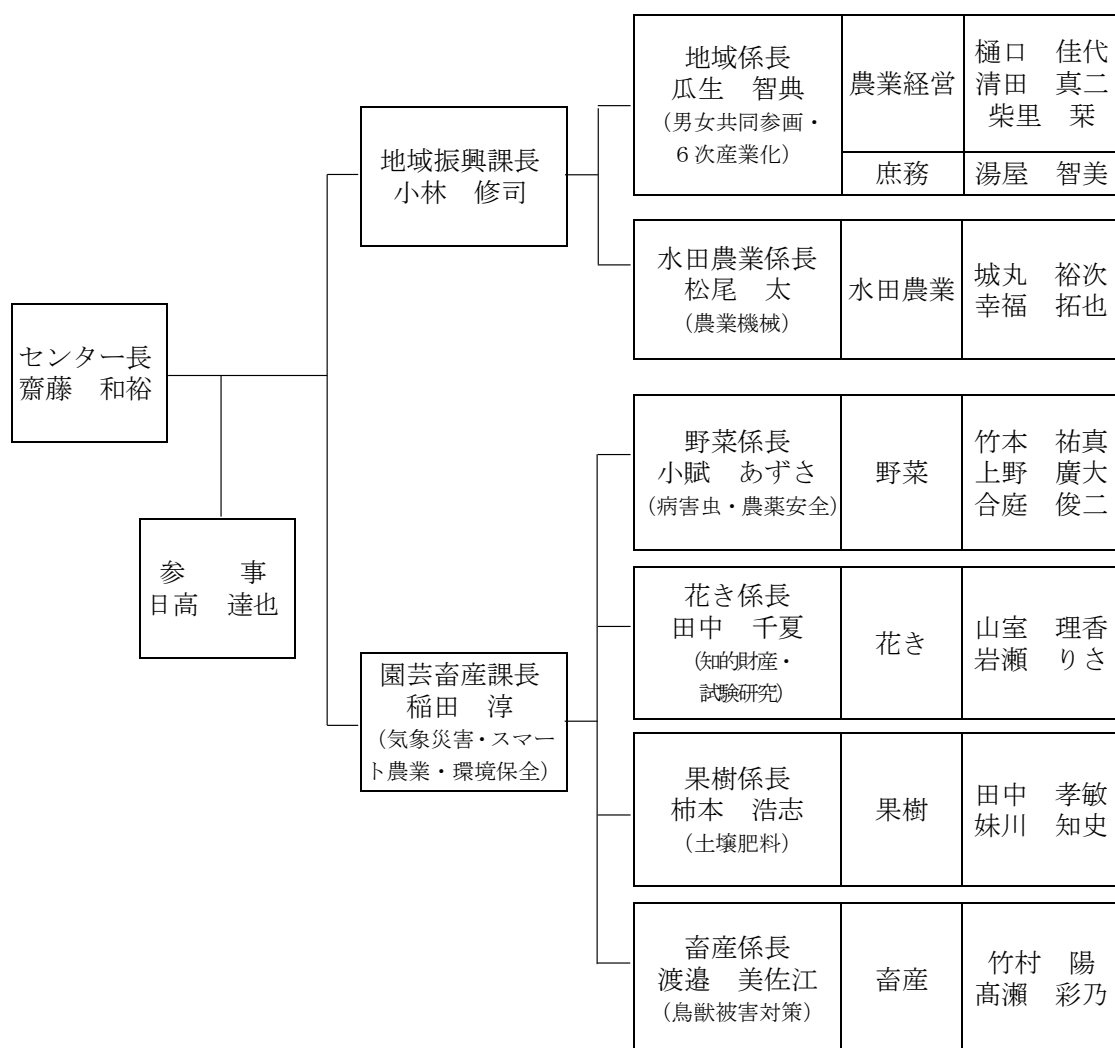
No.	タイトル
1	ふくおか嘉穂大豆作部会が総会を開催 －昨年以上の多収をめざして－
2	農作業受託管理者に対するブドウの 房管理講習会を開催－アルバイターの 技術向上を目指して－
3	夏秋なす産地の活性化 －新規栽培者への支援－
4	女性農村アドバイザー研修交流会を開催 －補助事業や起業について学び、語ろう－
5	第1回花き技術研修会を開催 －夏場の高温対策について学ぶ－
6	シャクヤク試験結果報告会を開催 －シャクヤク栽培の高品質化に向けた 取組－
7	高品質なキク生産を目指して －露地キクの現地講習会を実施－
8	営農基礎講座「病害虫の基礎知識と防 除管理のポイント」を開催－効果的な 防除方法による安定生産を目指して－
9	飯塚地域新規就農者のつどいを開催 －先輩農業者の期待を胸に、がんば れ新規就農者！－
10	JA直轄管内で飼料用米品種を比較 －飼料用米の単収増を目指して－
11	営農基礎講座野菜部門（いちご）の 開催－いちごの栽培の基礎について 学ぶ－
12	JAふくおか嘉穂ぶどう部会でシャイ ンマスカット品評会を開催－シャイ ンマスカットを一番上手につくった のは誰？－
13	いちごの健苗育苗に向けて －いちご先進地視察の開催－
14	「里山レモンの会」ブランド化に向 け始動－レモンをとおして地域を元 気に－
15	パソコン簿記初級講座を開催 －記帳はパソコンで－
16	飯塚地区高校生農業セミナーを開催 －直轄4HCが高校生に農業の魅力 を伝える－

No.	タイトル
17	繁忙期の短期労働力確保に向けて 先進事例を学ぶ－筑豊地域花き生 産者連絡協議会が全体研修会を開 催－
18	あかい、まるい、おおきい、うまい を食卓に－令和6年産「博多あまお う」出荷開始－
19	県北ブロック農業青年技術交換大会 を開催－農業青年の基礎知識習得と 地区を越えた交流の拡大をめざして －
20	嘉穂地区農業青年クラブが県庁で農 産物販売会を開催－農産物販売を通 してクラブの情報発信－
21	雇用研修会を開催－雇用管理の基 本、多様な雇用確保の方法について 学ぶ－
22	経営者育成塾の開催－未来への一歩 をビジネスプランから－
23	トマト先進地視察の開催 －トマトの収量向上を目指して－
24	JAふくおか嘉穂ぶどう部会で冷蔵シャ インマスカット試食会を開催－新し い販売アイテムの創出を目指して－
25	ランピースキン病の発生防止に向け て部会員が対応を協議－JAふくお か嘉穂繁殖和牛部会が全体研修会を 開催－
26	いちご炭そ病の撲滅に向けて－炭そ 病対策研修会を開催－
27	大豆新品種「ふくよかまる」と農作 業安全対策について学ぶ－飯塚地域 担い手・産地育成総合支援協議会の 研修会開催－
28	ぶどう部会園地流動化検討会を開催 －ブドウ産地を継続していくために －
29	ふくおかエコ農産物認証制度の申請 を受付－新規の取組や、面積拡大す る生産者が増加－
30	女性農業者農産加工研修会を開催 －野菜の美味しい食べ方を学ぶ－

(令和7年2月発行まで)

(3) 普及指導センターの活動体制

○課係体制



○班活動の体制

・プロジェクト班

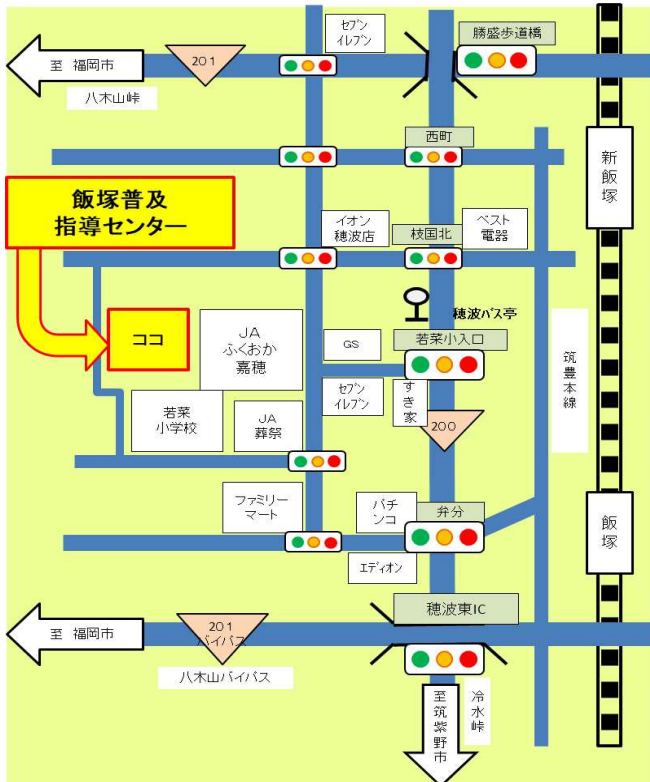
NO.1「担い手の確保と経営発展による地域農業の維持」

NO.2「多様な販売による生産者の確保及び直轄地域農業の活性化」

・推進班

経営体育成推進班、担い手育成推進班、情報活用推進班、安全・安心農畜産物推進班
DX 推進班

周辺地図



庁舎への交通アクセス

車

八木山バイパス「穂波東IC」から約1.2km
「若葉小入口」交差点から約750m

JR

福北ゆたか線飯塚駅または新飯塚駅下車
タクシー約10分

西鉄バス

穂波バス停から徒歩約10分
「若葉小入口」交差点から約500m



Google Map



飯塚普及指導センター
(県公式HP内)

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089 福岡県飯塚市小正 319-1

TEL : (0948) 23-4154 FAX : (0948) 29-4866

E-Mail : iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

HP : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/>

福岡県行政資料

分類 番号	所 属 コード	登 録 年度	登 録 番号
PA	4703419	06	0001